

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 8月 25日 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	ひだまり荘 敷戸 (大分県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>鈴木 達也</u> 氏名 <u>春山 千恵子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>衛藤 優子</u> ヒアリングを行った職 1人

○項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2009年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4490100163
法人名	ひだまり荘 有限会社
事業所名	ひだまり荘 数戸
所在地	大分市数戸北町2番2号 ひだまり荘 (電話) 097-504-7250

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府老番館1F
訪問調査日	平成21年 8月 25日

【情報提供票より】(平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造+木造 造り		
	3階建て0.	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 34,000 円		

(4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名		要支援2	2名	
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しきど診療所・数戸沢宮歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1、大分市街地より車で約30分の郊外に位置し、ご近所の特徴として昭和中期に建築された核家族世代が多く暮らす住宅地を様し、生活に必要な銀行や郵便局・マーケット等が散在しています。また、近隣には幼稚園や小学校があり、バス通りにも面しており、人の流れを実感できる生活環境を有する団地の一角に健在しています。室内は風光に恵まれ、トイレのオンシュレットや洗面所の高さ等にも気配りが見受けられる3階建ての施設です。
2、『利用者本位』『地域との連携』を大切に実践に励みより充実した体制作りに向けて尽力されている姿勢に感銘を受けます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを取り入れることにより、改善への取り組み状況に応じ優先順位の明確化が図られています。第一に、施設としての職員間の理念(意識)の共有が行われ、ユニット(グループ)目標から個人目標への流れが構築されています。この体制を基盤として、職員一丸となり一層の資質向上に取り組んでいます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、自己評価の趣旨や目的を理解した上で評価表の原案作成に至り、評価原案は全職員に配布されています。全職員の意見が反映できる報告書の作成を目指し、職員間での積極的な意見交換に努めています。職員一人ひとりの「気配り・目配り」を基に、利用者一人ひとりに添ったサービスの質の向上に尽力されています。</p>
	<p>重点項目 ②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>施設(利用者・職員)、地域、行政を交えた積極的な意見交換の場として、各分野より8名の参加者を募り2ヶ月毎に開催されています。現在の状況を踏まえ、地域密着型の施設の特徴が発揮できる運営や活動の指南を仰ぎながら、環境や支援等の介護力向上への取り組みが協議されています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>金銭明細書の発行に合わせ、利用者とポストイットを貼り付ける等の共同作業を通して生活の様子を伝えるハガキ作りが行われており、毎月の近況が報告されています。また、面会時の声かけや手紙・電話での呼びかけによりコミュニケーションが図られています。新聞作りの計画も進められる中、家族の方々へのより一層の理解と参加・協力に向けた取り組みに、更なる期待がもたれます。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>交流の一環として、民生委員を中心に、趣味のボランティア披露や心配事相談の場として地域への呼びかけが行われております。その中で、施設内の様子を把握していただき認知症への理解がより深められると共に、地域行事への参加が促進されています。今後の取り組みとしては、災害時や緊急事故発生時の安全・安心対策として、地域の方々の協力体制の整備に大きな期待が持たれます。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念	前年度の評価で指摘を受けた、理念の掲示について改善がなされていますし、理念の核となっているものの文言化されていなかった「地域との交流」も付け加えられています。利用者との信頼関係を育み、地域との触れ合いができるホームにしていくという理念に沿って支援が行われています。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		○理念の共有と日々の取り組み	身近な出来事に理念が反映されていると管理者は認識し、職員の動きに目を配っています。職員に自己点検シートを配布し、理念に基づいた自己目標を書いてもらうようにしています。また、職員への聞き取りから、職員同士で場面々々で理念に沿った行動か確認合っている様子が確認されました。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい	ホームが地域の中で定着するように、地域行事には絶対に参加するようにしています。また地域の人にもホームへ来てもらえるように、近所の歌や踊りのサークルに声をかけ、ボランティアで披露してもらうなどの取り組みがなされています。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用	自己評価表は、管理者が作った叩き台をもとにして、職員全員で話し合いまとめました。その過程で評価の意義・狙いについて職員に周知させるように努めました。前年度の評価について、改善計画シートを作成して優先順位をつけながら改善に取り組みました。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		○運営推進会議を活かした取り組み	近所の店主や独居高齢者等地域の一般住民もメンバーとして参加しています。設立後2年の現状では、ホームと地域間の相互理解のための交流の場として重きを置いています。自由で活発な意見交換ができるようにブレイクストーミング方式で会議を進行させています。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に訪れる度に、同業者や有料老人ホームの情報、制度や法律についての情報を聞くようにしています。また、役所の方からも運営推進会議に限らず、足を運んでくれて見学をしてくれたり、困ったことは無いか尋ねてくれたりしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回請求書等を発送する際に利用者の暮らしぶりを添えて家族に伝えています。また個別の連絡は頻繁に行うように努めています。今後毎月1回ホームの新聞を作れるように、編集ソフトを購入しました。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族から色々な話を引き出せるように努めています。しかし関わりを持ってくれる家族とそうでない家族がはっきり分かれてしまっている状況です。そのためホームに来れない家族に対しては手紙で様子を詳しく伝えると同時に、顔を出してもらえよう継続的に呼びかけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が1日1回は別ユニットに顔を出すようにしており、利用者と馴染みの関係を作る取組みがなされています。現在のところ異動・離職の動きが見られない状況です。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対してはホームの理念から認知症の知識に至るまでが記載されている独自のテキストを用いて研修を行っています。また管理者・職員の立場に見合った研修計画を作成した上で外部研修に参加しています。研修の成果はシフトによって全員が一回で集まる機会をつくるのが難しいため、数回に分けて報告を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士で声をかけ合って、職員レベルに至るまで勉強会・見学等の交流をしています。またグループホーム県連絡会に加盟し研修・意見交換を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の了承ではなく、必ず利用者本人の納得で入居してもらおうとしています。まだ実際におこなったことはないですが、1週間等本人の納得がいくまでの期間、体験入所の準備が整えられています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	役割分担表をつくり、利用者の能力に見合った役割が持てる工夫がなされています。利用者の「やらされている感」を減らすように、感謝の言葉を伝える等に努めています。中には職員に先立って洗濯物を取り込んでおいてくれる利用者がいたり、利用者が仲間の利用者に働きかけをして動くことも見られます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントから聞き取れる情報は少ないのが現状です。日々利用者と接していく中で細かい事柄を収集し集積していく方法を採用しています。それらを職員全員が共有し、本人の立場に立って検討していきます。「本人の立場に立つ」こと自体の難しさを痛感しながら取り組んでいる様子が見られます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは本人・家族の思い・希望が反映するように聞き取りをしています。また月1回開く個別支援指針カンファレンスで出てきた意見・アイデアは随時ケアプランに付加え更新しています。記載法に関して、シンプル・具体的な方法論を採用しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャー・計画作成者・職員の協議により6か月毎に介護計画が作成されており、本人や家族等への説明により承諾が得られています。体調に変化が生じた時は、経過を見ながらニーズに添った計画の検討、見直し、制作が進められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な支援として、家族の状況に適した通院介助(送迎や付き添い)に取り組んでいます。また、入所時の荷物の運搬、独居の利用者の自宅の整理等、利用者や家族の要望に応じた柔軟な援助に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望による受診、並びに、状態に応じた病院選択が同意を得て行われています。また、家族への検査結果や診察の経過等の伝達や、職員間での情報の共有も図られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時から家族と共に看取りについて考える機会を持ち「重度化による終末期の対応指針(看取り)・同意書」の説明がなされ、同意を得ています。利用者の体調の変化に伴う家族の心情の変化の把握に努めており、意向に即した支援が家族等との話し合いにより進められています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物やミーティング時による漏洩ミスの防止策として、利用者等の人目に触れない・聞かせないを常に意識しています。日常の言葉かけや対応については、職員同士の気付きの中で互いに注意し合える関係作りに努めています。個人情報保護規定を掲示すると共に利用者や家族へ配布されています。年間研修計画への導入に、一層の期待が持たれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月1回の個別支援会議では、職員の気付きを大切に自由な発言を基調とする雰囲気の中で会議が進められています。職員の共通の理解を深めることにより、臨機応変な援助の実現と、個々の利用者の行いたいことや家族の希望に添った支援が図られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、当番の仕事として無理のない範囲で職員と一緒に活動しています。毎朝のお味噌汁の下ごしらえやおやつ作りにも積極的な参加を促し、言葉を交わしながら「食」を楽しんでいる様子が伺えます。また、地産地消(季節の野菜)を取り入れて食の安全や、利用者の嗜好の把握に努めています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に隔日での入浴を基本としていますが、臨機な対応も可能であり、利用者の希望を尊重した入浴形態を主に支援されています。入浴後の言葉(感想)を大切に受け止め、一人ひとりへの声かけや好み(湯温・時間帯)に配慮しながら、入浴を楽しめる援助が行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前の「いただきます」の挨拶は、順番制で一人が号令を掛けることを習慣としており、個人の存在と役割が日常的に確認されています。個性を尊重した声かけを大切にされており、生活歴を基に、得意な作業(花壇の手入れや洗濯物干し等)や趣味(編み物等)を楽しむ『喜び』を見出す支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望に応じた支援が行われています。	○	地域とのよりベストな関係づくり(あらゆる場面を想定して)の一環として、「地域の方々に正しくより深い理解や協力を得る」ための文書作成に期待がもたれます。より安全性に留意された外出支援への取り組みに、更なる期待がもたれます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室の鍵はかけられておらず、日頃から「気配り・目配り」を実践されており、日々の一人ひとりの身心の状態を把握した上で、利用者の行動に臨機応変に対処しています。	○	突発的な戸外の外出時には、地域の方々の協力を得ることができる対策の検討に期待がもたれます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ての避難訓練と、定期的な施設内での避難訓練が実行されています。地域住民への協力依頼については、運営推進会議を通して参加協力に向け提案されています。さらに、口頭にて各班長へ説明が施されています。	○	立地条件(住宅地)を生かして、非常災害時の地域への協力体制を含めたマニュアル作り、また、非難訓練時の住民参加へのアプローチ等、積極的な取り組みに一層の期待がもたれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり身体の状態に応じた食べやすさの工夫(食器類の選択)と、記録表による栄養・水分の摂取量の把握(職員共通)が図られています。嗜好を配慮しながらの声掛けなど、食卓の楽しい雰囲気大切にバランス良く栄養を確保する取り組みが行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の場所は、共同制作した作品や思い出の写真で飾られ、四季折々の趣を味わえる空間となっています。より安全で快適な暮らしに向けて生活運営推進委員等の意見が取り入れられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に架けられた個別の暖簾が印象的であり、室内は自作品等で飾られています。さらに、ベッドやタンスは共通の品物を準備しないなど、一人ひとりの趣きを尊重する工夫が施されています。また、動的な安全性や使い易さを考慮した部屋作りにも努めています。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひだまり荘 敷戸
(ユニット名)	1F・2F
所在地 (県・市町村名)	大分市敷戸北町2番2号 ひだまり荘
記入者名 (管理者)	衛藤 優子
記入日	平成21年 8月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症のホームだからと事業所の中に閉じこもることなく、近所のスーパーに買い物に出かけたり、イベントと一緒に参加したり、老人クラブ等の方々と交流を図っています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的な会議で、運営理念を全職員で再確認し、実践に向け取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	なぜ、ここに事業所を構えたのか、理解を得るために、ご家族様には新規入所の際や、面談の際に、地域の方には地区の会合等で、理解していただけるように説明を行っています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外掃除や、洗濯物・布団干し、散歩等、普段、家の主婦たちが交流を図るのと同じように、当ホームも自宅の延長として職員が、近所の方々と交流を図っています。また、買い物から家に帰るまでの休憩場所として、雨宿りの場所として活用していただいています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域・班主催の行事(お花見・旅行)に参加しています。また、夏祭りや運動会、老人会、お餅つき等、地域の行事には必ず参加させていただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>民生委員の方と協力し、地域の独居高齢者の情報を共有したり、地区の会合等で、何か困ったことがあるときは相談してほしい、と呼びかけています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前回評価していただいた結果を元に、改善すべき点はすぐに実行しています。(例えば、運営理念の掲示等)評価結果を、全員が把握し、自分の能力を過信せずより良いケアに当たれるように取り組んでいます。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>評価直後の、運営推進会議で、報告をさせていただきました。ブレインストーミング方式で行っているため、参加者からも自由な発言をいただき、サービスの向上につながっていると思います。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>様々な職務で市役所を訪ねる機会があり、その中で情報交換を行っています。市役所の方も、お忙しい中時間を作り、ホームに足を運んでくださることがあります。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>勉強会を通じ、徐々にではありますが、学んでいます。</p>		これからは、もっと深く様々なことを学んでいきたいです。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>市役所が開催する集団指導等に参加し、高齢者の虐待や身体拘束等について学んでいます。また、参加した職員だけの知識にとどめることがないように、ホームに帰り、他職員に講習するようにしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結・解約の際は、項目ごとに説明を行い疑問点はないか尋ねています。また、その場で思いつかないこともあるかと思われるため、契約書をご自宅にて読み返していただき、不安な点があればご連絡いただくようお願いし、理解と納得を図っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常日頃からコミュニケーションを図り、その中から意見や不満を聞き取っています。また、運営推進会議では、利用者の方も交えて意見の交換をすることがあります。それらを職員間で話し合い、より良い運営を目指しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書と領収書を発行する際、皆様の1か月の暮らしぶりをそれぞれのご家族様にご報告しています。また、個別で特記な事項があった時は、お電話でご報告したり、利用者様の写真付きの手紙を作成し、ご連絡・ご報告させていただいています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、ご希望に添えるようにしています。外部者に対しては、運営推進会議への参加、家族会への参加を呼び掛けていますが、ご家族の方もお忙しいようで参加していただけていません。契約書に外部の苦情相談窓口を記載しています。</p>	継続して、呼びかけていきます。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや会議の際に、意見交流会を行っています。また、日頃から、何かあれば意見を聞かせてほしい、と言っています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>運営者と管理者は、要望に対応できるような職員を確保するために、シフト表作成時、調整を行っています。また、急な要望にも対応できるように職員を雇用しています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症の利用者にとってなじみの職員というのは心強いものです。そのため、職員の異動は最低限に努めています。また、異動になっても利用者の方が戸惑わないように、ユニットに関係なくなじみの関係を築くように努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	個人能力に合わせて法人内外の研修を受講しています。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	各施設で開催される講演会や勉強会に参加したり、スポーツ大会に参加するなかで、意見の交流を図り、サービスの向上に努めています。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	イベントの後の打ち上げや、忘新年会を開催しています。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個々の努力や実績を把握し、それぞれのポジションを確立し、自分の仕事ができるようにしています。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用開始前に必ず本人と家族と面談し、現在の状況を聞き取り把握するように努めています。また、不安な点も多いと思うので、利用前にご家族と一緒に見学して雰囲気を感じとっていただき、納得の上入居していただくようにしています。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ご本人、ご家族の希望を、利用開始前の面談で必ず聞き取り把握するようにしています。事前に見学もしていただき、ご家族の方と一緒に支援していけるような信頼関係を築く努力をしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	「その時」のご本人と面談し、GH入居がその方にとって一番 最良なのかどうかを、ご家族や関係者とともに十分に話し合 い、ご家族が他のサービスをご存じなければ、ご紹介する等 の対応をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	不安な面も多いと思われるので、利用前にご家族と一緒に 見学して雰囲気を感じ取っていただき、納得の上入居してい ただくようにしています。また、場合によっては、お試し期間 を設けるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの中で役割分担をしていただき、すべてを奪ってしま わず、できることをいつまでも自分でできるように、また、自分 は役に立っているんだ、という意識を持って日々の生活を 送っていただくようにしています。そして、年長者として尊重 し、家族のように共に笑い共に悲しみ、支えあう関係を築い ています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	社会的に、ご家族の方は、自分たちも支援される側なのだ と勘違いしやすい環境ができていと思うので、相談・入居の 段階から一緒に利用者を支えていく、という意識を持ってい ただくようにお話をしています。何かあれば連絡して一緒に 解決できるように取り組んでいます。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	ホームに入ったからといった、関係が疎遠になってしまっ ては意味がありません。ホームが間に入ることで、ご家族の負 担を軽減でき、利用者の方とより良い関係が築いていただけ るように努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	ご本人が今どこでどうしているのか、ご家族様から大切な馴 染みの方等には連絡をしていただいています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	利用者の方の中には、どうしても対人関係が苦手な孤立しが ちな方や、他者を攻撃してしまい孤立してしまう方がいらっ しゃいます。まずは、職員と信頼関係を築き、職員を介して 徐々に利用者同士で打ち解けていっていただけるように取り 組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、担当のケアマネジャーさんや、施設の担当者の方等とその後の様子について話しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主にアセスメントシートに、その方の今までの生活歴等を記入し、その情報を職員が共有・把握に努めると共に今後の暮らし方の希望を聞き取るようにしています。困難な場合は、ご家族からの聞き取りや、身寄りがない場合には、本人の立場に立って検討するようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にアセスメントシートに、その方の今までの生活歴等を記入し、その情報を職員が共有・把握できるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人の生活のリズムの把握に努め、心身状態については、専属看護師とともに毎朝のVSCと患部のチェックを行い、現状を把握するように努めています。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人がより良い生活が送れるように、本人・家族の希望を聞き取り、ケアしていく中で、その方にとって支援が必要と思われる部分を職員で話し合い、介護計画に反映させて作成しています。また、市役所の指導監査課の実地指導により、ケアプラン作成のアドバイスをいただき、作成時の参考にしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、モニタリングと再アセスメントを行い、計画を見直しています。見直し以前に対応できない変化、例えば入院等で明らかに変化が生じた場合は、現状を即した新たな計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌介護(看護)記録を個別下記入し、職員が情報を共有しケアに当たれるようにし、その中で見つかる状況の変化を介護計画の作成に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院や送迎、付き添いは、ご家族が無理な場合はホームが支援しています。また、急用でご家族の支援が受けられなくなった時も、ホームが代行できることであれば、支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方が来荘して下さり、一緒におやつ作りをしてくださったり、近所の幼稚園と交流したりしています。また、中学・高校生の実習の受け入れもしています。警察や消防署は、避難訓練等を通じて、何かあった時の協力を要請しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の心身の状況を冷静に判断し、ご家族に説明し必要に応じて他のサービスを利用することができるように支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護等も含め、地域包括支援センターの方々と交流を図り、協働に努めています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望された病院にかかるようにしています。専門外の科の受診については、紹介状を書いていただき、専門医を受診するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>〇認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>〇看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>〇早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>〇重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>〇住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを常に尊重しながら対応するように取り組んでいます。記録は、ご本人が発した言葉をそのまま記録しますが、それが、誇りやプライバシーを傷つけないように注意しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いを表わすことが苦手な方とは、個別にゆっくりお話する時間を設けて希望などを聞き取り、活かせるようにしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	国民の行事は、その当日にイベントをするようにしていますが、それ以外のバスハイクや季節に応じたイベント(お餅つき等)は、その日の利用者の健康状態や天候、希望に沿って実施しています。また、お花が好きな方、散歩が好きな方、色々いらっしゃいますので、それに応じて対応しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホームに定期的に来て下さる美容師さんもいらっしゃいますが、行きつけの美容院に行きたいという希望があれば、行くことができます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いはあると思いますが、できるだけ栄養が偏らないように、職員と一緒に席について一緒に食事を食べています。また、当番制で配膳やお盆拭き、台拭き、テーブルの下の掃除を毎日一緒に行っています。また、お味噌汁の具を毎日一緒に切って準備しています。メニューに関しては、厨房職員が利用者の方より聞き取りを行ったり、栄養士との連携の下決めていきます。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは全館禁煙のため吸うことができません。飲み物やおやつについては、1日2回おやつがありますので、その時にできるだけ皆さんの好みにあったものをお出しするようにしています。個人的な飲み物の希望がある場合は、各居室内で飲んでいただき、他の利用者さんが不快に思わないように配慮しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便意・尿意の薄くなって生きている方については、職員が定期的に声かけ・誘導を行い、排泄コントロールを行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっていますが、突然の入浴希望にも対応できるようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日中活動するというのは、高齢者の方にとって体力的にも厳しいものがあると思います。そこで、当ホームでは、昼食後、排泄・口腔ケアを済ませて。それぞれの居室や、好きな場所で休憩時間を設けています。休めない方は、職員と一緒に過ごしていただいています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人1人の特技や技能を活かして、日々の生活の中で主役になれる時間を作るようにしています。役割を持つことで、自分の存在価値を見出し、張りりと喜びのある生活を送っていただけるように努めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理上、必要最小限の金銭の所持をお願いしていますが、不必要にお金をばらまくことがないように支援しています。また、そのお金を持って、買い物に出かけ、支払いをするお手伝いをしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	突然のお一人での外出希望にも対応しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	バスハイクを活用し、普段行けないようなところに行くようにしています。また、ご家族にもお声かけをして、一緒に行くこともあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望は、ご家族から制限がない限り自由にしていただいています。手紙やはがきは、ご家族からも届きますし、その返事を利用者が書いたり、字を書くことが難しい時は絵をはがきに描いて送っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の方の生活のリズムもありますので、訪問時間は決めさせていただいていますが、訪問時間内はホールでも居室でも自由に使用し、過ごしていただいています。(訪問時間外でも、ご連絡をいただければ面会できます。)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修で徐々に理解を深めています。身体拘束は一切行っておりません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各職員が「気付き」や所在確認を日頃から身につけるようにし、日中から玄関に鍵はかけていません。居室の室内側の扉には鍵は付いておらず、室外側の戸も、換気の為あいていることがほとんどです。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	どうしても重度の方に手が行きがちですが、スタッフ同士で役割を整え、所在確保や安全確保に取り組んでいます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的にハサミやナイフ類・針・火気類は個人ではお持ちいただけません。しかし、完全になくしてしまっているわけではなく、要望があれば職員と一緒に使用するようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット等を活用し、例を基に事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の応急手当等の講習を受け、訓練しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時避難訓練を定期的に行っています。また、運営推進会議等で、近隣住民の方々に災害時や緊急事故発生時、協力していただけるようお願いをしています。		次回からの消防訓練には、地元の消防団の方にもご協力いただきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用開始前のヒヤリングやアセスメント取りで揚げられる、それぞれのリスクについて、家族の方々に説明を行っています。そのリスクを負った生活の中で、そればかりを気にして抑圧された日々にならないように注意しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りをこまめに行い、異変等についての情報は常に全職員が把握するようにしています。また、すぐに看護師や主治医に状況の報告を行い、対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに薬事を挟んでおり、理解に努めています。薬が変更になった際は、症状の確認を行い、変化があればすぐに主治医に報告するようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らないように、3度の食事をしっかり摂っていただいたり、水分補給をしっかりしていただきたいと思います。また、朝の蠕動運動が活発に行われるように、日頃から体操などに取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っています。自歯が残っている方は、特に口臭がきつくなることが多いので、職員の見守り・指導の下、口腔ケアを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事の摂取量を記録しており、栄養等が確保できているか確認しています。1人1人の状況に応じて食器類も工夫し、食事内容も個別に刻み食にするなどしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	爪切り・体温計の使い回しをしない、必ず消毒する。食事・おやつ前、出先から帰社した際、手洗いうがい・消毒をする。食器類の消毒をする。職員が外部から持ち込まないように十分注意する。出社したら消毒をする。等を実行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は、消毒液にて消毒しています。食材も過大な買いだめはせず、新鮮なものを使用しています。主な野菜は、無農薬の畑で採れた有機野菜を使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りには高い建物はありません。内外の玄関ホールは、あたたかく親しみやすいように、植物を置いたり、日本庭園風にしていきます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館、自然の光と音を取り入れられるように工夫しています。ホールや廊下には、みんなで行ったバスハイク等の思い出の写真を飾り、自分たちで作った作品を展示しており、随所に居心地良く過ごしていただけるような工夫をしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごしていただけるように、居室だけでなく、所々に椅子やテーブルを設置しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは今まで使い慣れた物を持ち込んで頂くようお願いしています。(もちろんお持ちでない場合は準備しています)写真や小道具、趣味の品、お仏壇等をお持ちいただき、自宅で過ごしていた雰囲気にならなくてもちかい状況で生活が送っていただけるように工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	匂いや空気のおどみは、不快感が高いため、効率的な換気に努めています。温度調整は、暑いからと冷やしすぎたり、その逆がないように十分注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリー・手すり等を活用した構造になっています。また、建物が2階建てのため、EVを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知力の違いがあるため、失敗したときにその方が恥ずかしい思いをしないように、職員がすぐにカバーできるように努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節ごとのお花を一緒に植えて、毎日の水やりを行ったり、ベランダではちょっとしたものが干せるようにしています。また、庭には木製の椅子とテーブルを置いて、天気の良い日はそこでお茶を飲んだり歌を歌ったりしています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)